

## 学校自己評価報告書

学校教育目標： 自ら学ぶ、心豊かでたくましい児童を育成する。

重点項目	中長期経営目標	短期経営目標	評価項目 (具体的な計画)	達成状況	改善方策
学力向上・授業改善	分かる授業、充実した活動を通して、児童が達成感をもち、向上意欲を高める。	少人数指導の利点を生かして、授業の改善と充実を図る。	表現力を向上させる指導方法の改善を図る。  家庭学習の充実を図る。	今年度も、校内研修で複式学級の効果的な指導法等の研修を行った。「対話」を生み出す工夫や発表や説明場面の意図の設定等の実践により、表現力の向上がみられた。プログラミング教育も試行した。家庭学習に「自主学習ノート」を取り入れることで、主体的な学習による学力の定着に取り組んだ。	少人数ではあるが、「主体的・対話的な深い学び」の実現に向けて、特別支援教育の視点を取り入れる等の工夫をして、授業改善をさらに充実させていきたい。
		基礎学力の定着・向上を図る。	スキルタイムや放課後学習等で、基礎・基本の反復練習をする。	毎日10分間のドリルを通して、漢字や計算の力が定着している。また、少人数のため個別指導が効果をあげ、個のもてる力がよく伸びている。	更なる基礎学力定着と、それが、発展的な学習にも活用できるものを目指す。
健康で安全な生活	子どもが学校を楽しみにし、健康で安全な生活を営もうとする態度を育成する。	保護者との連携により、好ましい生活習慣をつけさせる。健康に留意し、災害や犯罪から身を守る判断力をつけさせる。	アウトメディアで保護者との連携を図る。防犯教室を行う。様々な想定で実際の避難訓練を計画的に行う。	中学校区で連携して計画的にアウトメディアに取り組むことができた。児童のメディアへの関わりにはまだ課題は残る。不審者侵入の避難訓練を実施し、安全意識が高まった。職員にも抜き打ちの避難訓練を実施したことで判断力の向上に繋がった。	アウトメディアの取組を家庭での学習時間の増加につなげたい。安全教育を系統的に行い、自ら命を守ろうとする意識をさらに向上させたい。
地域に信頼される学校	保護者・地域に対して情報発信が誠実に行われ、連携が図れる。	小規模校の利点を生かした教育活動を保護者・地域と連携しながら行う。	便り・通信等で活動の具体的内容まで伝える。  学校行事や授業に地域人材を活用する。	校長便りや学校ホームページ等を通して、学校の様子を伝えた。学校の教育活動に対して、地域の方の協力意識は高く、今年度も多くの協力をいただいた。学校行事や教科の授業等に、地域人材を活用した。また、地元大学の留学生との交流学习を通して、国際理解教育を推進することができた。他校との交流の機会も多かつことができた。	児童が地域に貢献する活動を行いたい。  より多くの教科・領域において地域人材の活用を図りたい。近隣の学校との交流もさらに進めていく。

### 来年度の重点取組（学校自己評価を踏まえた今後の方向性）

- ・社会性を育成するため、他校との交流活動や体験活動を充実させる。
- ・少人数指導のプラス面を生かし、さらなる基礎学力の定着、個に応じた学力向上を目指す。
- ・ソーシャルスキル・トレーニングなどを取り入れ、コミュニケーション力の育成を図る。

# 学校関係者評価報告書

## 1 自己評価の報告の概要

本校では、学校経営目標を基に、次のことを目指して取り組んできました。

- 子どもが学校を楽しみにし、笑顔と元気なあいさつで登校し安全に暮らせる学校
- 分かる授業、充実した活動を通し、児童が達成感をもち、向上意識を高めることができる学校
- 一人一人が活躍できる場があり、少ない人数でも活動が盛り上がり、児童が自信をもっている学校
- 学校から、教室から、保護者に対して情報発信が誠実に行われ、連携が取れている学校
- 一人一人が常に自分の貢献度を振り返り、次への意欲をもつことができる教職員集団

その中でも、昨年度の学校関係者評価委員会での評価結果を受けて、今年度は次のことを重点に取り組んできました。

- ① ゲームのしすぎや、テレビの見すぎに気がつけた生活（アウトメディア）
- ② みんなのために役立つことを進んでしようとする貢献意識の育成
- ③ 他校との交流活動の充実

平成30年12月に実施した児童・保護者・学校職員へのアンケート結果や日々の児童の様子を、校内自己評価委員会で話し合った結果、来年度は次のことを重点に取り組むことにした。

- ① 他校との交流活動や体験活動の充実
- ② 基礎学力の定着・学力向上への取り組み
- ③ コミュニケーション力の育成

## 2 評価委員の評価結果

児童数が少ないことを生かして、行き届いた指導や教育活動ができている。中学校に進学した児童も、大人数の中でもうまく適応し楽しい学校生活を送っている。運動会などで、堂々と話をするなど自分の役割を立派に果たす姿はすばらしい。人数が少ないので一人一人に活躍の場があり、よく鍛えられている。体験活動や他校との交流活動をたくさん取り入れているのがよい。子どもたちは密度の濃い学校生活を送っており幸せだと思う。

## 3 評価委員の提言

- ・同学年の子同士での意見の交流の機会が必要ではないか。他校との交流の中でそういう機会をもつというのはよいことだと思うが、なかなか現状では、コミュニケーション力の育成が難しいのではないか。
- ・連南小の同学年の子との交流を、低学年のうちからもってほしい。
- ・子どもの人数を何とか増やせないか。オープンスクールを実施してはどうか。

## 4 学校関係者評価を踏まえた改善方策

学校関係者評価委員会で話し合われたことや提言を踏まえて、子どもたちにとってよりよい教育を実現できるように教職員一人ひとりが使命と責任をもって努力していくようにしていく。

保護者の皆様・地域の皆様、これからも霞丘小学

校へのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。